

前々回委員会 (2004. 6. 22) 以降の状況報告

1. 状況報告	1
2. 結果概要等	2
・ 第 1 回ダムWG(2004.7.11)結果報告・議事メモ	
・ 第 2 回ダムWG(2004.7.18) 結果報告・議事メモ	
・ 第 3 回ダムWG(2004.7.25) 結果報告・議事メモ	
・ 第 36 回運営会議(2004.8.20)結果報告	

1. 状況報告

①第 1 回ダムWG

・ 7 月 11 日 (日) に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料 2 ページをご参照下さい。議事メモについては、本資料 4 ページをご参照下さい。

②第 2 回ダムWG

・ 7 月 18 日 (日) に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料 10 ページをご参照下さい。議事メモについては、本資料 12 ページをご参照下さい。

③第 3 回ダムWG

・ 7 月 25 日 (日) に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料 20 ページをご参照下さい。議事メモについては、本資料 23 ページをご参照下さい。

④第 31 回委員会

・ 7 月 29 日 (木) に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑤第 1 回川上ダムサブWG (現地視察)

・ 8 月 3 日 (火) に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑥第 1 回 3 ダムサブWG

・ 8 月 7 日 (土) に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑦第 1 回余野川ダムサブWG

・ 8 月 11 日 (水) に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑧第 4 回ダムWG

・ 8 月 19 日 (木) に標記会議が開催されています。結果報告については、現在確認作業中です。

⑨第 36 回運営会議

・ 8 月 20 日 (金) に標記会議が開催されています。結果報告については、本資料 30 ページをご参照下さい。

第1回ダムWG会議（2004. 7. 11 開催）結果報告		2004. 7. 15 庶務発信
開催日時：	2004年7月11日（日）13：30～19：00	
場 所：	キャンパスプラザ京都 第1会議室	
参加者数：	WGメンバー委員 24名、WGメンバー外委員 4名 河川管理者 30名	
<p>1 主要な決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今本博健委員が先の運営会議でリーダーとして承認されたことが報告された。 ・ ダムWGに、以下の3つのサブWGをおく。ダムWGは、ダム建設の必要性、代替案との比較などを行い、ダム建設の是非について審議する。 【丹生・大戸川・天ヶ瀬ダムWG】、【川上ダムWG】、【余野川ダムWG】 ・ ダムWGにコアWGをおく。コアWGは、ダムWGの運営について審議するとともに、サブWGの審議を基本として、ダムWGが委員会に答申する原案を審議する。 ・ サブWGおよびコアWGのメンバーは「別紙」のとおり。 ・ ダムWGは基本的に「公開」で行う。検討結果も公表していく。 ・ ダムWGは検討結果を12月中に報告書としてまとめることを目指して作業を進める。 <p>2 審議の概要</p> <p>庶務から資料1「ダムワーキンググループに係わる経過」を用いて経過説明がなされた後、審議に入った。</p> <p>①ダムWGの運営方法について</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 今本リーダーより「ダムWGの運営について」（今本メモ）を用いてダムWGの提案がなされた。 ※ 「ダムワーキンググループの運営に係わる検討事項」（資料2）について庶務から説明がなされた。 <p>今本リーダーより、ダムWG会議は傍聴者の受け入れが難しい面が多いのではないかと指摘があったが、メンバーから受け入れを望む声が多く、基本的に「対応」することとなった（第1回、第2回は傍聴者無し）。主要な意見は以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WG会議は、事務的な面から傍聴者の受け入れは難しいのではないかと。密室性を避けるために、検討内容はできるだけ速やかに公開していきたい。 ・ 何らかの方法で、傍聴を可能にした方が良い。整理券の配布等で人数制限をしてもいいから、傍聴受け入れを考えて欲しい。 ・ 作業や勉強の時などは傍聴者を入れなくてもよいのではないかと。 <p>作業スケジュールとしては、現在の委員が任期のうちに結論を出したいという考えから、10月頃までにはまとまった成果をつくり、12月中には報告書としてまとめることとなった。</p> <p>その他、「ダムWGの運営について」をベースに、「主要な決定事項」のとおり決定された。</p> <p>②川上ダムに係る報告（資料3-2をもとに）</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明がなされた。 <p>主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。</p>		

- ・ 資料p17の表で、黄色の網かけ部分のみ氾濫量が大きく減少するのはなぜか。
←次回までに説明できるようにしたい。
- ・ 治水計画の目標を何にするのか明確にする必要がある。被害の「解消」ではなく、「軽減」としたのであるから、目標の設定がないと議論できないのではないか。
- ・ 河川工学の専門家だけではないので、みんながわかるように説明して欲しい。
- ・ ハイドログラフで特定の洪水を前提としているが、その洪水を選んだ理由を教えてください。
- ・ 県の管理部分は現況を前提としているのか。テクニカルタームはやさしく説明して欲しい。
- ・ 天端から余裕高を引いたところで破損するという前提はおかしいのではないか。その前提がおかしいと、計算の意味がなくなる。また、なぜに河道掘削をしないのか。前提が問題である。 等

③余野川ダムに係る報告（資料4-2をもとに）

※ 河川管理者（猪名川総合工事事務所等）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 被害の「軽減」の目標を決める必要がある。たとえば、床上浸水をしないようにするとか、浸水頻度を軽減するとか。あとは、経済的な検討も重要である。
- ・ 前回の説明の内容と今回の説明が異なるのではないか。説明のたびに違いような気がする。流量で説明したり、容量で説明したりしており、全体としての比較がわかりにくい。
- ・ 事業量がある程度示してもらわないと困る。お金の有効活用という面では問題ではないか。
←治水効果、事業費等を総合的に評価する必要がある。説明させていただきたい。
- ・ 数字が出てきても、以前の検討から何も進んでいないように思う。きっちり検討したものを出してもらわないと、キャッチボールにならない。

○一庫ダムの説明

- ・ 放流の操作規則について、新旧の違いをもっと説明して欲しい。差があまりにもあり過ぎる。
- ・ 一庫ダムでは、一定量放流するよりも、流入量に応じて放流量を増やした方が良いのではないか。
- ・ p45の2つのケースとは何か。何が前提で、何が結果なのかよくわからない。他のところも、全部そのような書き方になっている。
- ・ 高度な情報技術を使ったコントロールの方法があるのではないか。
- ・ 「できない」という答え方はいかなものか。ここまでははっきり言えるが、こういう点については「どうでしょうか？」という問いかけが重要だ。
- ・ 水利権等の問題をまじめに考えておいた方がよい。緊急渇水状態では、水を融通する必要がある。
- ・ パーツは出ているが、パーツの組み合わせによる論理構成になっていない。

○川上ダム・代替案の検討、水需要計画の見直し

- ・ 現状を共有しようということをやっているが、それぞれの担当部署で差があるように感じる。
- ・ 利水計画があまり進んでいない。従来の検討の繰り返しのような気がする。次回はきっちりしたものを出して欲しい。

以上

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第1回ダムワーキンググループ会議 議事メモ

開催日時：平成16年7月11日（日）13：30～19：00

場所：キャンパスプラザ京都 第1会議室

WGメンバー委員 24名、WGメンバー外委員 4名 河川管理者 30名

1. 開会

2. 経過説明

※ 庶務より経過説明がなされた。

3. 審議

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

委)：委員長 リ)：リーダー ・)：その他委員 ←)：河川管理者

資料についてはホームページを参照して下さい。

①ダムWGの運営方法について

※ 今本リーダーより「ダムWGの運営について」（今本メモ）を用いて提案がなされた。

また、サブWGへの所属やリーダーの設定について変更希望がある場合には、後ほど伝えて欲しい旨の発言があった。

※ サブWGのリーダー候補となっていた委員から調整を希望する意見があり、休憩時間に調整することとなった。

※ 「ダムワーキンググループの運営に係わる検討事項」（資料2）について、庶務から説明がなされた。

リ) これまで委員会は完全公開にしてきたが、運営会議では事務的な理由により一般傍聴者の受入れは困難ではないかとの意見があった。頻繁に開催されることから、募集する時間がないためだ。密室でやっているという非難を受けないためにも、検討の中身については、速やかに情報発信していきたい。速記録は最終的に確認が取れるまで時間がかかるので、内容がわかるレベルの議事録を早く作るようにしたい。なお、議事内容の確認については、校正を速やかに戻すようにご協力願いたい。

- ・ これまで、地域部会長の立場にあったことから、自分の意見表明は控えていたが、今回、自分の立場を明確にしておきたい。私は、水は貯めるべきであるという考えだ。もっと真剣に、長期的視点に立って水問題を考えるべきだ。環境も大事ではあるが、古代から培われてきた土木技術の伝統を守っていくべきだ。現在建設中のダムを途中で止めるのはコストベネフィットの面からも無駄である。ダムは、本来、多目的な性格を持っている。鮎の遡上等の問題も重要だが、技術的にクリアできることだろう。

- リ) 大局的な立場からのご発言であり、真摯に受けとめたい。
 - ・ 今本リーダーは運営会議で決められたかと思うが、改めて、委員会として今本リーダーの承認をとるべきではないか。委員長より一言お願いしたい。
- 委) 委員会として、今本委員にリーダーをお願いしたい。
 - 拍手多数で承認された。
 - ・ メンバーの面で不安がある。別表を見て思うのだが、川上ダム、余野川ダムで会議が頻繁に行われるとすると、5名がしっかり出ることができるかどうか懸念される。川上ダム、余野川ダムにもう2~3人増やすことはできないか。
 - ・ コアWGには入っているが、サブには入っていない。どこかのサブWGに入っている必要があるのではないか。汗をかき覚悟はできている。川上ダム、余野川ダム各々5名のところを2~3名増やすことはできないか。全員が河川管理者からの説明を聞くことが重要だ。サブWGの判断で、河川管理者に出席いただくことは可能か。
- リ) サブWGのメンバーについては、最低、これだけは必要という感じで丸を付けている。人数が多すぎると議論しづらくなるということもあるが、問題ないと思う。
 - ・ 丹生、大戸川、天ヶ瀬の3つのダムは分けた方が良いのではないかと。少なくとも、性格の大きく異なる天ヶ瀬は、別のサブWGとすべきではないか。
- リ) サブWGの数が多すぎると問題だ。やりながら、問題があったら修正するというでいかかか。
 - ・ サブWGのリーダーの件は、根回しもなかったことから困惑している。8月の中旬までは非常に忙しい。作業のスケジュールを、まず、メンバー各人が共通認識として持つ必要がある。
- リ) 当初は説明を聞くことが多くなるので、その間に調整していくことが考えられる。
 - ・ 8月の中旬までにまとめが必要となるのか。
- 委) 最終的に、現在の委員の任期中に結論を出したい。そのため、12月中には報告書を作りたい。そのためには、10月頃までには、かなりまとまったものがないとまずい。
 - リ) 説明を聞いたり、現地を見たりすることも必要となる。そのため、8月一杯でまとめるということはある得ない。しかし、任期があるので、12月中にはまとめたい。
 - ・ 会議は公開されるのか。
 - リ) WG会議は公開であるが、一般傍聴者の受け入れは難しい面がある。WG会議は勉強会的な意味合いも強い。傍聴者を受け入れられない場合でも密室性を避けるために、検討内容はできるだけ速やかに公表していきたい。事務的な面から傍聴者の受け入れが難しいと考えている。
 - ・ できるだけ傍聴可能にするべきではないか。可能性を追求して欲しい。
 - リ) 時間的余裕がないこともあり、本日の第1回と次回(第2回)は傍聴者なしでお願いしたい。
- 委) 傍聴者を受け入れるということであれば、人数の問題があり、会場確保の問題がある。議論の内容の即時公表ということではいかかか。
 - リ) これまで完全公開を原則にやってきているので、一般傍聴者を受け入れないというのは心苦しい。もう少し検討させて欲しい。
 - ・ 活動を限っても傍聴受け入れを行った方が良いのではないかと。議論のまとめも要旨が抜けてい

ることが多い。

- ・ 何らかの方法で、傍聴を可能にするようにした方が良いのではないか。整理券の配布等で人数制限をしても、受け入れる方向で考えて欲しい。
- リ) 打合せの時間を 20 分取りたい。14:30 から再開する。

<休憩>

- リ) 「一般傍聴者を受け入れない」は取り消したい。何らかの方法で受け入れることを考えたい。
- ← 本日は、ダムWGに緊張感を高めて参加している。7月2日付けで芦田委員長に提出したメモをもとに河川管理者の覚悟と委員会へのお願いを述べさせていただきたい。
- ⇒ 「ダム計画の調査検討に関する今後の審議について」をもとに発言
- リ) 今日は、その議論は置いておいて、ダムの説明をお願いします。

②川上ダムに係る報告（資料3-2をもとに）

※ 河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明がなされた。

- ・ 資料p17の表で、黄色の網かけ部分のみ氾濫量が大きく減少するのはなぜか。理解できない。おかしいのではないか。
 - ←この場で、明確に説明できないが、次回までに説明できるようにしたい。
- ・ 遊水地の地域を固定している。氾濫量を減らすことが目的なのか、あるいは、床上浸水などを軽減させることが目的なのか。治水計画の目標を何にするのか。
 - ←基本的には、氾濫量を減らすことが目的であるが、工費のことなども考えなければならない。諸元を決めるということではなく、ケース設定をして、氾濫量を出してみるというシミュレーションを行っている。
 - ←氾濫量といっても、その対象地が水田なのか市街地なのかで大きく異なる。単純に氾濫量だけではない。当然工費のことでも考えなければならない。
- ・ 被害の「解消」ではなく、「軽減」としたのであるから、目標の設定がないと議論できないのではないか。
- ・ 4つの越流堤の条件を同じにするよりも、個別に設定することでより精度が上がるのではないか。河床掘削をしないというのは、効果を下げているのではないか。
 - ←河床掘削の件は計算が完了していない。
- ・ 配布されたパンフレット「川上ダムの計画について」の中にある「解消」は「軽減」の誤りではないか。
 - ←昨年4月にパンフを作成した時点では、「解消」を前提としていたため。
- ・ 1次遊水の可能な地域はたくさんあるのではないか。越流した場合に、一定時間の中で、どれだけ外に水が出るのかわかりやすく示して欲しい。
- ・ 河川工学の専門家だけではないので、わかりやすい資料を出すとともに、みんながわかるように説明して欲しい。

リ) 細かな議論はサブWGでして欲しい。

- ・ ハイドログラフで特定の洪水を前提としているが、なぜに、この洪水を選んだのか、理由を教えてください。

リ) 今日でなくても良いのではないか。

- ・ p13、表 3-2 にもう一つ欄を作り、大洪水、中・小洪水のランクを示して欲しい。4ヶ所の遊水地に関する部分がよくわからない。
- ・ 県が管理している部分は現況を前提としているのか。テクニカルタームはやさしく説明して欲しい。

リ) まだまだ質問があると思うが、時間の問題もある。回答の準備等もあるので、質問は文書で出して欲しい。

私も質問がある。天端から余裕高を引いたところで破堤するという前提はおかしいのではないか。その前提がおかしいと、計算の意味がなくなる。なぜに河道掘削をしないのか。前提が問題である。文書で質問する。

ここで休憩を取りたい。16:05 から再開する。

<休憩>

③余野川ダムに係る報告（資料4-2をもとに）

※河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明がなされた。

委) 被害の「軽減」の目標を決める必要がある。たとえば、床上浸水をしないようにするとか、浸水頻度を軽減するとか。あとは、経済的な検討も重要である。そのあたりをどのように考えているのか。

←「解消」は困難なので、今後示したい。

- ・ 昔は5~10年に1度くらいは田畑が水につかるのは当たり前だと農業関係者は考えていた。補償する必要があるのかどうか。地域に応じた治水の安全度が重要だ。
- ・ 前回の説明の内容と今回の説明が異なるのではないか。説明のたびに違うような気がする。流量で説明したり、容量で説明したりしており、全体としての比較がわかりにくい。

←今後の説明と併せてお話しする。

- ・ 代替案については事業費単価をある程度示してもらわないと判断がし難い。限られた財源の効果的活用という面でも比較する必要があるのではないか。

←治水効果、事業費等を総合的に評価する必要がある。説明させていただきたい。

- ・ 議事の進行に対して意見がある。数字が出てきても、以前の検討から何も進んでいないように思う。今の程度の検討ではお話にならない。きっちり検討したものを出示してもらわないと、キャッチボールにならない。

○ 一庫ダムの説明

※河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明がなされた。

- ・ 放流の操作規則について、新旧の違いをもっと説明して欲しい。差があり過ぎる。

←一庫ダムの効果には限界がある。治水容量を増加させる効果があるということについて、その理由を説明した。

- ・ 説明を途中で切られるとわからなくなる。本来の重要な部分を説明して欲しい。今までの部分はどうしてもよい部分ではないか。

(説明再開)

委) 一庫ダムでは、一定量放流するよりも、流入量に応じて放流量を増やした方が良いのではないか。

←これまでは一定量放流のみを検討してきた。現実と合わない操作をしていた面がある。

←150m³/sよりも流量を大きくすると下流の流下能力を超えてしまう。その関係で、150m³/s以上は放流できない。

委) 大きな洪水に限っては一定率放流の方が良いのではないか。操作方法については、もう少し考えた方がよい。

- ・ p45の2つのケースとは何か。何が前提で、何が結果なのかよくわからない。他のところも、全部、そのような書き方になっている。
- ・ ダム堆砂は治水・利水容量をくわないようにするべきだ。

委) 書いていることは、間違いないと思う。

- ・ 治水容量を振り替えた時に、どれくらいのものまでであれば、被害を「なし」にできるのか。
- ・ 堆砂の関連では、115万m³/sを有効に使うことはできないか。また、嵩上げは、何故に3m、4mではだめなのか。話を聞いている限りでは、この方法が一番効果的だと思う。

リ) 説明者の回答が不明確である。

- ・ 高度な情報技術を使ったコントロールの方法があるのではないか。
- ・ 150m³/sしか流せないのであれば、200m³/sを考えるのはナンセンスなのではないか。
←河道掘削等をセットで考える必要がある。
- ・ 「できない」という答え方がいいのかどうか。こういう点については「どうでしょうか？」という問いかけが重要ではないか。ここまでははっきり言えるが、この部分はどのように考えたらよいのか、問いかけることが重要。出し方をじょうずにして欲しい。
- ・ グラウンド、農地の問題は、農水省とか県とかと調整が必要ではないか。
- ・ 予備放流という方法はあるが、「あきません」とだけ言っている。150万m³/sより増やせないとなると支離滅裂になってしまう。

水利権等の問題をまじめに考えておいた方がよい。緊急渇水状態では、水を融通する必要がある。国交省ではどのように考えているのか。パーツは出ているが、パーツの組み合わせによる論理構成になっていない。論理の組み立ての問題だ。

リ) 休憩を取り、6:15から再開する。

<休憩>

○ 川上ダム、代替案の検討

○ 水需要計画の見直し

※河川管理者より説明がなされた。

- ・ 現状を共有しようということをやっているが、それぞれの担当部所で差があるように感じている。
- ・ 利水計画があまり進んでいない。従来の検討の繰り返しのような気がする。次回はきっちりしたものを出して欲しい。
- ・ 調査・検討を行う際、一例としてp16、p17の部分（予備放流）は、そこをどうするかという議論をしてきているのに、進化が見られない。2年前に当時のダムワーキングで聞いた話と変わっていないように思う。

○ サブWGの構成について

※ 結果として、別紙のとおりとなった。

○ その他

リ) ダムWGはできるだけ傍聴者の受け入れを行っていきたい。

- ・ ダムWGの場合には、作業する部分もある。作業や勉強の時などは傍聴なしでもよいのではないか。

以 上

第2回ダムWG会議（2004. 7. 18 開催）結果報告

2004. 7. 23 庶務発信

開催日時：	2004年7月18日（日）13：30～19：30
場 所：	キャンパスプラザ京都 第1会議室
参加者数：	WGメンバー委員 19名、WGメンバー外委員 3名 河川管理者 29名

1 主要な決定事項

- ・ ダムWGでは、周辺の調査結果は省略して、直接、本論に入るようにする。
- ・ 具体的には、最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行う。
- ・ 次回のダムWG（7月25日、13:30～18:00）の開催前の10:00から、委員のみでの意見交換の場を設ける。

2 審議の概要

①調査検討に係る報告

○琵琶湖環境について（資料1-1、1-2、1-3をもとに）

※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 環境の話は充実しているが、3ダムが関係する琵琶湖関連の調査としては、ダムとの関連性は明確でない。
←現時点で、琵琶湖がどう変化しているのかと、どの原因を幅広く検討している段階で、今後は総合的に評価していく予定である。
- ・ 水位の急速な低下の問題は、理解している。そのところは省略して本論に入るようにしてほしい。
←重要との認識があれば、直接的な部分から進められる。

※説明の途中で、サブリーダーの3名と河川管理者で、全体の進め方について相談した。

- ・ 相談結果であるが、河川管理者の考え方とダムWGの考え方に、多少、乖離があると感じた。
←これから全力で検討を進めたい。今時点の検討結果をご報告して、キャッチボールをさせて欲しいという趣旨である。
- ・ スケジュールをきちんと示されれば、安心して聞くことができる。管理者はどう考えるのか。
←どの時期にどのくらいのもので出せるのかは、書けるようにしたい。

○丹生ダムに係る報告（資料2-1、2-2をもとに）

※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 高時川は琵琶湖に影響がないというのは、乱暴である。影響があるが、観察できないということではないか。
- ・ 高時川は、ダムがあっても計画高水位を超え、堤防強化が最優先されないと、住民不安は解消されず、このことは強調して言うべきである。
←治水に関しては、滋賀県とともに考えているところで、流域住民の安全を守るため、コスト面、時間的にみて何が効果的かを考えていきたい。
- ・ 利水については、疑問に思っている。

○大戸川ダムに係る報告（資料 3-1, 3-2 をもとに）

※河川管理者（大戸川ダム工事事務所）より説明がなされた。

主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 前の委員会と同じ説明だった。問題は大戸川をどうするかである。
←他に5つの項目の検討が残っている。琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響については、丹生ダムとともに検討する。大戸川ダムは大戸川下流や淀川下流の治水にも有効であると考えており、治水について引き続き検討していく。また、利水については、他のダムとともに検討していく。
- ・ 前回の説明でも、ダムからの放流量を 150 トン/s としているが、これは限界の放流量として生きているのか。
←日吉ダムでは、従前に 10～40 年に 1 回の洪水に対する最適な放流量が検討されており、それに基づいて現行の操作が行われている。

○天ヶ瀬ダム再開発に係る報告（資料 4-1, 4-2 をもとに）

※河川管理者（琵琶湖河川事務所）より説明がなされた。

- ・ 琵琶湖の水位が 2.9m 高くなるということは、何もいらないということか。また、それぞれの対策は、独立の対策なのか。
←ダム本体の放流能力も変化するが、だめな場合は、トンネル方式の放水路も必要となる。基本的には、使えるものは全て使って多く流したい。
- ・ 本日のWGの検討内容は、琵琶湖総合開発との関連があるが、新たにもう 1 回、治水、利水をやり直そうというように聞こえる。
- ・ 琵琶湖の水位操作の問題を解決しないといけないのではないか。
←水位の前提を変えると、様々なものが白紙となる。見直す必要があれば議論すべきと考えるが、まずは、現状をベースとして琵琶湖の環境改善の方向性と改善策について検討を行っている。
- ・ 予備放流は難しいという結論があるなど、反発を感じている。

②今後の検討の進め方について

※委員長より、委員からの提案を踏まえて以下の提案がなされ、この方向で検討することとなった。

- ・ 最初に「ダムの目的、必要性の検討」、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」、最後に「比較検討」を行ってはどうか。

その他、主要な意見、質疑応答等は以下のとおり（例示）。

- ・ 委員が変わるまでに結論を出さないといけないのか。
←調査検討を一生懸命やっているところで、継続的にキャッチボールさせて欲しい。
- ・ 委員長からスケジュールの話があったが、検討結果が出ていなくてもダムWGとして意見を出すのか。
←目的に対しては検討できる。代替案は、検討結果が出た範囲でやらないといけない。サブWGを実施してからダムWGという手順を考えると、全体の意見交換まで進むかどうか。
←次回の午前中に相談させて欲しい。3つのグループが、それぞれ検討して欲しい。 以上

※このお知らせは委員の皆様から主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第2回ダムワーキンググループ会議 議事メモ

開催日時：平成16年7月18日（日）13:30～19:30

場所：キャンパスプラザ京都

WGメンバー委員 19名、WGメンバー外委員 3名、河川管理者 29名

1. 開会

2. 審議

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

委)：委員長 リ)：リーダー ・：その他委員 ←：河川管理者

資料についてはホームページを参照して下さい。

①調査検討に係る報告

○琵琶湖環境について

※琵琶湖河川事務所より、資料1-1、資料1-2、資料1-3の説明があった。

リ) ただいまの説明に対して、ご意見がありますか。

- ・ 環境の話は内容として充実しているが、3ダムが関係する琵琶湖関連の調査としては、ダムとの関連性が明確でない。

←資料1-1の検討項目のなかにダムのことを記載しており、前提としてダムをどうにかするという意図はない。現時点で、琵琶湖がどう変化しているのかと、その原因を幅広く検討している段階で、今後は総合的に評価していく予定である。

リ) この点については、審議を予定している今後の進め方のなかで河川管理者に意見を述べたいので、途中で時間をいただきたい。

- ・ 社会的環境のなかで、「産業」という言葉を使っているが、水面を利用している産業の中では水産業が最も重要であり、産業としての実態を正確に捉えていく必要がある。

リ) ダムの建設に是非については、核心を離れた周辺だけで検討している感じがする。

- ・ 資料1-1のデータは、過去30年間のデータのみならず、1950年代の比較できる資料も必要ではないか。また、水陸移行帯の改善については、水位の抑制を認めるということをうたわないといけない。

委) これは、流域委員会でも要望したことであり、治水の問題についても、ダムを考えない調査を要望している。

←ダムがあろうとなかろうと調査はやらないといけない。また、それを役に立てないといけない。水位低下の問題は大きな比重を持つが、水位を低下させることについては、認識を共有する必要がある。水位の問題は多様で、一つ一つ分析を進めていくことが必要で、そのなか

でダムも出てくることになる。

- リ) それであれば、ダムWGはいらぬのではないか。出来ていないのに説明を聞くのは、不可解ではないか。
- ・ 何故、琵琶湖環境の説明をするのかわからない。問題はダムをどうするんだということである。琵琶湖の環境については、滋賀県が責任を持っているが、滋賀県とどう連携しているのかについて触れていない。さらに、直轄は触れているが、非直轄は触れていない。もっと大きなことがあるのではないか。進め方については、きちっとやって欲しい。
- リ) 資料1-1によると、今日の資料はごく一部で、他はいつできるのか。意見書の要望には、いつから触れてくれるのか。
- ←琵琶湖の水位低下の抑制が必要で、ダムはその役割を果たすことが可能である。
- リ) 水位の急速な低下の問題は、理解している。そのところは省略して本論に入るようにして欲しい。
- ←重要との認識があれば、直接的な部分から進められる。
- 委) 直接、そこに入った方がよい。
- ・ 資料は重要であるが、議論すべきことは何か。具体的に提示して欲しい。
- 委) 水位低下については、目標設定してダムを前提にせず、どうできるかを直接、検討すべきである。
- リ) ここで、30分の休憩とりたい。
- ・ 対決の構図ではなく、皆が知恵を絞って検討していくべきである。ダムの建設目的が変わってきており、その背景や理由を説明して欲しい。
 - ・ 休憩をとるのはよいが、今日のスケジュールを教えて欲しい。
←これから丹生ダムについて、資料2-2に基づいて説明させていただきたい。
- 委) 12月までには報告書を作成する必要がある、今回はこの議論をするということを決めないといけない。
- リ) サブリーダーの3名と河川管理者で、全体の進め方について相談したい。

※30分間の休憩

- ・ 相談結果であるが、河川管理者の考え方とダムWGの考え方に、多少、乖離があると感じた。スケジュールも決められないと言っている。
←調査検討の説明状況(資料1-1)に沿って調査を実施しており、これから全力で検討を進めたい。今時点の検討結果をご報告して、キャッチボールさせて欲しいという趣旨であり、ダムの可否という結論まで、お話しさせていただくという場ではないと考えている。
- リ) 今日の説明は、聞かなくてもダムの議論はできるのではないか。ダムWGは、環境のための勉強会ではない。
- ・ 管理者は、検討過程でキャッチボールしたいということだが、ダムWGとしては、肩透かしにあったという感じである。大きく3つの検討課題があると思う。一つは、「ダムの必要性の基本

となる現状分析と原因を明らかにする」こと、二つは、「ダム事業の目的、課題の妥当性の検討を行う」こと、三つは、「事業自体の妥当性を検討し、代替案を検討する」ことであり、この3つの段階を経て議論していかないといけない。とにかく、報告を聞いて、第一段階のステップの議論を各ダムWGで議論して指摘していったらどうか。

- ・ 委員会では、資料の事前送付をお願いしたが、是非、お願いしたい。今の方法は、非効率である。
 - ・ スケジュールをきちんと示されれば、安心して聞くことができる。管理者はどう考えるのか。
←時期については、今日の段階では今回と次回以降という区分しかしていないが、どの時期にどのくらいのものかというのをもう少し書けるようにしたい。
 - ・ ダムの目的や課題がしっかりしないなかで、前のものが出されても議論できない。当初の目的と現在の目的、結果として効果がどうなっているのかの一覧表を整理して出して欲しい。また、水源地対策も一つの目的となっており、どのようなことが行われてきたか、行うのかの一覧表が必要である。
- り) そのようなことは、本来、自分ですべきことではないか。簡単にできるのであれば、対応して下さい。
- ・ 来週の日曜日は、利水の説明と聞いているが、どのような説明なのか。事前に、資料も含めて提供いただけないか。
←利水の説明で5～6時間ということではなく、22日の委員会での説明の補足説明と、ここ1～2週間での追加情報を加えたものを説明する予定である。
- り) 次回以降の進め方は、考えさせて欲しい。

○丹生ダムについて

※琵琶湖河川事務所より、資料2-1、資料2-2の説明があった。

- ・ 高時川は琵琶湖に影響がないというのは、乱暴である。影響があるが、観察できないということではないか。
- ・ 瀬切れについて、定義があれば教えて欲しい。
←瀬切れについては、資料2-2の53頁に発生状況を示し、その後に写真を添付してあるが、あくまでも目視である。
- ・ 地元では、治水対策を早急に講じて欲しいという声が多いが、今回の説明を聞くと、ゆっくりとしたテンポである。滋賀県が主導ということか。
←治水については、滋賀県と精力的に調整しているところである。責任は滋賀県にあるが、一緒に流域全体も考える必要があり、検討した。
- ・ 高時川は、ダムがあっても計画高水位を超えることはあり得るから、堤防強化が最優先されないと、住民不安が解消されず、このことは強調して言うべきである。また、利水面では、ダムをつくったとしても水利権の問題で効果がなくなることがあり得るが、水利調整の話が書かれていない。

←治水に関しては、滋賀県とともに考えているところで、流域住民の安全を守るため、コスト面、時間的にみて何が効果的かを考えていきたい。利水に関しては、瀬切れ解消のための放流であれば、きちんと調整する。

- ・ 堤防強化が最優先と書かないと、本気で考えていないと思われる。また、利水についても、それを書かないと土地改良区は納得しないと思う。

←資料2-2の14頁(3)で、堤防の強化は基本と書いてある。また、水位を低下させる方法もあると書いてあり、より良い方法を検討していきたい。

- ・ それが出るまでは、ダムを検討しないということか。

←あわせて検討していくということである。

リ) この問題については、是非、サブWGで検討して欲しい。

←利水について、丹生ダムでは、利水者自身が見直そうかということであり、管理者としては言いにくい。また、丹生ダムでは、利水容量を減らさずに、他のダムで減らすという可能性もある。利水の難しさは、琵琶湖の水位や下流の管理も関係していることにある。

- ・ そうではなく、どういう協議段階にあるのかを書いて欲しいということである。

←現状では協議が終わっておらず、利水者との間で、包括的に整理しないといけない。

- ・ 利水については、疑問に思っている。前回の川上ダム説明資料の第4章、5章で少し出しているだけであり、あの扱いは何なのか。

←利水については共通の問題で、同じ内容なので省略させていただいた。

- ・ 利用者がどのように見直し検討をしようとしているのかを明確にして欲しい。また、琵琶湖の容存酸素の問題は重要な部分であるが、こんな簡単な結論づけをしてよいのか。琵琶湖研究所の調査結果との間でどうしたのか。

←利水については、先週の会議の前半で説明させていただいた。容存酸素の問題については、雪解け出水に対して全て否定している訳ではない。容存酸素は琵琶湖の大循環と関係しており、他の河川もみないと、全体についてみることができない。琵琶湖研究所の熊谷先生の検討内容を否定する根拠はなく、現象としては事実である。勉強しながら検討を進めていくつもりである。

- ・ 方法が下手だと思う。例えば、雪解けの総流量は、琵琶湖の面積で割ると高さがどうなるか。潜る途中で湖底での泥温との交換であがっていく。それは反応が生じているということである。最終解がないということではない。

- ・ 治水問題について、姉川ダムの治水機能は計算に入っているのか。

←今回のデータにはないが、今ある施設を考慮して説明していく。

○大戸川ダムについて

※大戸川ダム工事事務所より、資料3-1、資料3-2の説明があった。

- ・ 前の委員会と同じ説明であった。問題は、大戸川をどうするかである。

←資料3-2のはじめに示しているように、本日の説明は、3)日吉ダムの利水容量の振替え

についての検討のみで、他に5つの項目の検討が残っている。2)琵琶湖の水位低下抑制のための大戸川ダムからの放流による効果と、その自然環境に及ぼす影響については、丹生ダムとともに検討するが、大戸川下流や淀川下流の治水にも有効であり、この手法について引き続き検討していく。また、利水については、他のダムとともに検討していく。

- ・ 前回の説明でも、ダムからの放流量を150トンとしているが、これは限界の放流量として生きているのか。
←日吉ダムでは、従前に、10～40年に1回の洪水に対してどのような放流量が適切かを検討されており、現行の操作がそれに基づいて行われている。

※10分間の休憩。

○天ヶ瀬ダム再開発について

※琵琶湖河川事務所より、資料4-1、資料4-2の説明があった。

- ・ 天ヶ瀬に1,500トン流すためには、琵琶湖の水位が2.9mになるということであれば、何もしなくてもよいということか。また、それぞれの対策は、独立の対策なのか。
←ダム本体の放流能力も変化するが、だめな場合は、トンネル方式の放水路も必要となる。基本的には、使えるものは全て使って多く流したい。
- り) 今の説明は理解できないが、サブWGで検討して欲しい。
 - ・ 資料4-2の24頁の部分で詳しいデータが欲しい。例えば、ここでは浸水家屋は床上浸水か床下浸水なのか。また、前半は、環境の維持、エコトーンという議論がされていたが、一方で、浸水被害を徹底的に減らす、一方で、ある水位を保って産卵所を確保しようとするのが、ばらばらに議論されている。しかし、こうしたことは現場では同時におきているのであり、どこでどう議論をするのか。
←エコトーンとは別々に議論している。色々なWGを設置して、個々に対応しようとしている。合わせた議論は必要と認識しているが、見直しは決めかねている。進め方は相談させて欲しい。丹生、大戸川、天ヶ瀬は相互に関連しており、ダムWGとして3つを一体で議論するのがよいのではないか。
- り) ダムWGとしても3つを一つとして考えている。
 - ・ 本日のWGの検討内容は、琵琶湖総合開発との関連があるが、新たにもう1回、治水、利水をやり直そうというように聞こえる。計画の骨子と成果についても見せて欲しい。
 - ・ 琵琶湖の水位操作の問題を解決しないとイケないのではないか。
←現在の検討は、限定した条件のもとでの検討であり、琵琶湖総合開発での取り決めの積み残しもある。琵琶湖水位の+30cm、-20cmを前提に、流下能力1500m³/sの数字を何とか理解を得ているが、水位の前提を変えると、様々なものが白紙となる。見直す必要があれば議論すべきと考えるが、そこまでの必要性はないと考えている。
- ・ 最初に被害を軽減するというのを忘れてはいけない。琵琶湖沿岸には、特定の施設も多く、

どのくらい環境に影響を与えるのかをみる必要がある。今の回答は、そこはさわらないということであるが、そうではないのではないか。計画の趣旨をもう一度、確認していただきたい。

- ・ 予備放流は難しいという従来通りの結論だけがあるなど、反発を感じている。リスクが大きいためということから切り捨てられた。また、例えば資料4-2の61頁の発電所の案は採用でないというが、どの程度、関係者と議論して検討したのか。

←柔軟に計画を見直すことは考えているが、琵琶湖総合開発は、これまでの歴史のなかで検討されてきたもので、見直しは新たな計画をつくるということにもなる。現状を踏まえて、本当に必要だということであれば、真摯に受け止めたい。現在の検討は、計画があつてそこから出発している。また、天ヶ瀬の場合は、正式な手続きを経たものではないが、行政と関電の関係の中で打合せをする中で提案したが、河川管理施設にすることについては断られている。

- ・ 関係者との協議と連携については、これまでも言ってきたことであり、だめだから放棄ということではなく、引き続き努力して欲しい。

←相手のあることでもあるため、ご理解をいただきたい。先ほどのご質問の浸水家屋の7戸は床下浸水であり、その他は精査する。

- り) 操作規則であるとなれば検討が変わる。細かいところは問題があるので、個々のグループで是非、検討をお願いしたい。

②今後の検討の進め方について

委) このダムWGは、日曜開催で皆さんには負担をおかけしている。11月の委員会には、意見をとりまとめないといけないので、10月の中旬あたりまでには、まとめて欲しい。時間がないので、効率的な議論を進める必要があり、委員から提案のあつた、3つの段階を踏まえた議論の進め方に賛成である。最初に「ダムの目的、必要性の検討」を行い、次いで「代替案についてあらゆる角度から検討」し、最後に「比較検討」を行う。ダムの目的、必要性の検討では、当初の計画と変わっており、妥当かどうか検討していく。代替案については、要領よく治水、利水、環境保全の点で整理してもらって検討する。比較検討については、環境や地域社会に与える影響、経済性等を踏まえて、総合的に検討する。この3つが重要であり、ダム建設の場合は、影響を緩和する方法を検討する。

- り) 是非、そのように検討していただきたい。

- ・ 委員が変わるまでに結論を出さないといけないのか。委員会そのものは存続する訳で、自治体との連携は時間がかかる。どう考えるか答えて欲しい。

←調査検討を一生懸命やっているところで、継続的にキャッチボールさせて欲しい。最終結論については、いたずらに時期が伸びることは望んでおらず、しっかりやっていきたい。最終結論をいつ出せるのかということについては、先ほどの答えと同じである。(基礎案に書いてある調査検討項目というのはこうあつて、それをもう少しブレイクダウンしたのがこうだということ、今一生懸命やっている。最大のご不満は、これがいつ終わるのかということ、今のところはっきりと申し上げられません。)

- り) 我々もどうしたらよいのかという提案ができないか。来週の日曜の3回目のダムWGの後、サブWGがはじまる。庶務へのお願いであるが、サブWGに限らず、提出資料は全ての委員に送付して欲しい。もう一つ、来週の日曜のダムWGの前に、委員だけで意見交換をしたい。時間は、10時から12時までとしたいので、忌憚のない意見を聞きたい。
- ・ 委員長からスケジュールの話があったが、検討結果が出ていなくてもダムWGとして意見を出すのか。
- 委) 目的に対しては検討できる。代替案は、検討結果が出た範囲でやらないといけな。もっと調査しないとイケないとなる可能性もある。河川管理者は期限に間に合うような心づもりで対応すると思う。
- ・ 先ほどの30分の休憩時間での河川管理者との協議では、出せないというように受け止めた。
 - ・ ダムWG自身が、案の意見を出すということを目指すべきである。来年には、委員も替わり、河川管理者がどの程度出せるか否かは別として、代替案の検討をするなど、委員会自らも考えることが必要であり、全く受け身ではいけない。委員会が自発的に意見を出すという意気込みで対応すべきであり、スケジュールを作って進めていったらどうか。
- り) このWGはきつい。しかし、河川管理者の説明はできるだけ全員に聞いて欲しいというのは基本方針である。
- ・ サブWGを実施してからダムWGという手順を考えると、全体の意見交換まで進むかどうか、2度手間になるような気がする。
- り) 次回の午前中に相談させて欲しい。3つのグループが、それぞれ検討して欲しい。コアの会議も実施したいと考えており、バラバラの結果にはならないと期待する。
- ・ 進め方で感じたのは、河川管理者が検討を進め、できた段階で意見を聞くということであるが、委員からは検討の項目、プロセスの考え方が違うということである。事前に調査項目、範囲、代替案について予め委員会とすり合わせできていれぱうまくいったのではないか。それがないのでかみ合わない。サブWGで検討する際に、こんな項目、代替案で検討するということを予め委員会から出した方がよいのではないか。
- り) ダムWGでは、周辺の説明はいらぬ。委員会の目的や意見書の意見に伝えることができないのならば休眠する。
- ←ダムの検討を進めているなかで、途中でも資料を出している。今日の説明は、意見書の意見を踏まえて行ったもので、是非、キャッチボールをさせていただきたい。
- り) 次回からやり方が変わる。一般傍聴が入り、利水も入るので、しっかりやっていただきたい。目的、必要性は調べるまでもなく、何故、変わったのかを聞きたい。解釈の違いは議論すればよい。
- ・ 何故、目的が変わったのか。どのように変わったのか。そのことに対して、どのように捉えて、どうしようとしているのか。
 - ・ もう一年、結論を出すのを遅らせるということも考えているのか。
- ←検討結果を出した時点で、管理者も判断しないとイケない。そのときに結論を出せるかどうかは、個々の問題によって異なってくる。

- ・ 予め、委員会の意見とすり合わせをして欲しい。例えば、大戸川の目的の変化が何故、許されるかと質問しているが、それに対して答えてもらっていない。
 - ・ 意見書のなかで、すぐに答えられないものもあるが、そうでないものもある。計画高水の対象を決めているが、どんな根拠か説明がつかない。
 - ・ 基礎放流量等、不明確なものが多い。データを提示して欲しい。
 - ・ 余野川ダムでは、全てのダムの利水容量の把握をするのかしないのかを出していない。しない場合はダムにどんな目的を考えているのか。肝心の余野川ダムの必要性について全く触れていない。
- リ) それでは、時間も大分超過したので、このあたりで閉会したい。

以上

第3回ダムWG会議（2004. 7. 25開催）結果報告

2004.7.28 庶務発信

開催日時：	2004年7月25日（日）13：30～18：00
場 所：	梅田センタービル 18階会議室H
参加者数：	WGメンバー委員17名、WGメンバー外委員5名、河川管理者35名 一般傍聴者（マスコミ含む）41名

1 審議の概要

※冒頭、今本リーダーより、第1回、第2回のダムWG会議は開催日程が急であったことや会場確保の関係から公開ではなかったこと、また、今後は公開を原則とするが、会場の関係で人数制限をせざるを得ない場合があることにつき了承願いたい旨の発言があった。

①5ダムの目的について

※資料3-1をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・余野川ダムを満水にしたときに、下流の水位がどの程度下がるのか等の情報を示して欲しい。
←次の機会に示したい。
- ・大戸川ダムで、基礎案では日吉ダムへの利水容量の振り替えが有効と記述されているが、データが示されていないのでわからない。
←浸水区域や浸水戸数などでは有効性が認められなかった。基礎案の変更が必要。
- ・量的な情報（数字）を出してもらわないと、議論にならない。

②利水に関する調査検討の報告

※資料1-1～3をもとに、河川管理者より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・資料1-2の5ページ「水供給の実力低下」はどのように試算しているのか。
←近年は渇水が頻発しており、1/10の渇水に対して公称能力通りに供給できていない。資料1-3の13ページ参照（昭和59年で75%程度の実力）。
- ・平成3年頃までは供給量が取水量を上回っているのはどういうことか。
←取水制限をかなりの頻度でやってきている。
- ・今回はセットで報告されており、わかり易かった。利水や安全度の面で、1/10は確保すべきであり、「実力の低下」についてはもう一度検討する必要がある。また、府県はダムの撤退を表明しているが、国土交通省はどう考えているのか。利水については、琵琶湖の問題が絡んでいる。-150～200まで下げないと利水安全性を確保できないとはっきり言うべき。節水対策は水道事業者の経営を圧迫。河川管理者は、節水が水道事業者の経営にインセンティブを与えるようにするべき。
←府県のダム撤退は最終的な決定ではない。協議して欲しいということ。包括的な検討が必要と言っている。利水に関しては、-150まで下げても十分な容量を確保できず、深刻な問題。水道事業者にインセンティブを与えるような方策を今は持ち合わせていない。環境を守るということで節水を呼びかけている。
- ・どこまで「受忍」できるか。治水の面でも、利水の面でも、1/10を1/5にするようなことは、今の日本の社会では難しい。今のうちに手を打つ必要がある。
←1/10というのは、先進国の中では良い数字ではないが、とりあえず目指しているところ。

- ・近畿地方整備局の節水に向けた取り組みは英断と評価。はしごをはずすような消極的意見は問題。
- ・大阪府からの申し出に対して、「包括的に検討」というのは、ごまかしのようにも聞こえる。
- ・琵琶湖の放流量を有効に活用するためのバランスの良い操作管理が必要。
 - ←琵琶湖の水位と維持流量は取り合いの関係。維持流量は削減してきた経緯がある。

③質問等に対する補足説明

○川上ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 第1回ダムWGにおける質問に対する回答

※資料3-4をもとに、河川管理者（木津川上流河川事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・堤防強化をして堤防は壊れないというのが今回の計画の大前提。破堤は前提を崩すことになる。
- ・スーパー堤防の議論には、実現までの時間と金のデータが必要。30年間で見事にできるのであればダムは不要だが、僅かしかできないのではないのか。それが示されるまでは、議論できない。
 - ←どこを補強するべきか検討中。以前、つかみの数字は出しているので、次回、提示したい。
- ・堤防は治水の根幹。新しい工法に対してあまりに臆病であった。この委員会は技術的なことについて検討できる場ではないが、ダムか堤防かという選択に対してはきちんと検討したい。
- ・越流すると破堤することになるのか、河川管理者の考えを聞きたい。
 - ←時間の問題で、間違いなく破堤すると考えられる。
- ・長期的には、危険性の高い地域からは、移動することも必要ではないか。

○余野川ダム計画に関する調査検討（中間報告）---- 補足説明

※資料3-5をもとに、河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より説明。主要な意見等は以下のとおり（例示）。

- ・嵩上げで、どのくらいの費用がかかるのか。
 - ←2mで160億円、10mで1080億円等（道路の付け替え等含む一式）。
- ・最も効果があるのは銀橋上流の開削、その次がダムの嵩上げだと思う。開削を3段階程度に分けて、さらに余野川ダムをつくる、つくらない、さらにダムの嵩上げのマトリックスをつくって整理して欲しい。個人的には余野川ダムの効果は小さいと思う。
- ・下流の浸水被害も考慮が必要。
- ・銀橋の狭さく部は景観（溪谷美）にも配慮が必要。景観に係わる資料も欲しい。
- ・一庫ダムの変更の一番大きな理由は何であったのか。下流の河川対策は手を付けず、上流のダムで治水対策をしようという方針に切り替えたのか。
 - ←もともと考えていた操作では下流の対策がなく効果が不十分。中小の降雨でも効果があるようにということ考えている。

2 一般傍聴者からの意見

主要な意見は以下のとおり（例示）。

- ・治水に関して代替案があればダムは不要だ。利水需要の抑制は生活スタイルを変えていくようなものにしてほしい。需要を抑制する視点で、府県などにも上手に圧力をかけることも必要。
- ・ポンプなども含めた耐震性の確認が必要。
- ・福井の集中豪雨の犠牲者に対し、流域委員会で黙とうしたりカンパを募ることはできないか。
- ・福岡市の1人当たり水利用は292リットル。大阪市は519リットル。この格差を深く認識すべき。

3 その他

- ・参考資料2をもとに、河川管理者から福井豪雨災害についての説明がなされた。

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。

第3回ダムワーキンググループ会議 議事メモ

開催日時：平成16年7月25日（日）13:30～18:00

場 所：梅田センタービル 18階会議室H

参加者数：WGメンバー委員17名、WGメンバー外委員5名、河川管理者35名
一般傍聴者（マスコミ含む）41名

1. 開会

2. 審議

注) 発言内容の冒頭の記号は、以下を意味しています。

委)：委員長 理)：リーダー ・：その他委員 ←：河川管理者 傍) 一般傍聴者

資料についてはホームページを参照して下さい。

※冒頭、今本リーダーより、第1回、第2回のダムWG会議は開催日程が急であったことや会場確保の関係から公開ではなかったこと、また、今後は公開を原則とするが、会場の関係で人数制限をせざるを得ない場合があることにつき承願したい旨の発言があった。

理) 委員側としては、これまでの河川管理者の説明については不満がある。ダム建設の是非に係わる説明をお願いしたい。はじめに、ダムの目的が変わってきているのではないかという点につき、説明願いたい。その後、利水の話に移る。

①5ダムの目的について

※河川管理者より、資料3-1について説明がなされた。

- ・ 余野川ダムで、ダムを満水にしたときに、下流の水位がどれだけ下がるのか等の情報をわかりやすく示して欲しい。
←次回にお示ししたい。
- ・ 大戸川ダムについて、基礎案では日吉ダムへの利水容量の振替が有効であると記述されているが、そのデータが示されていない。データがないと、漠然としていてわからない。
←昨年5月16日の第21回委員会で報告した水位軽減効果のデータに基づいて有効であると申し上げていた。しかし、その後詳細に検討した結果、対象洪水では利水容量の振替で10cmほどの効果はあり、この点では有効であるが、浸水区域や浸水戸数などは利水振り替以前と変わらず、有効性が認められなかった。したがって、基礎案も変更する必要が出てきている。
- ・ 目的を変える段階で、その程度の検討を行っていなかったのか。
←これまでは考えられていなかった。(水位軽減効果しか検討していなかった。)

- り) 今の委員の意見は、目的を変える段階で、その程度の検討をした方がよいのではないかということだ。この点については、ここまでとしたい。
- ・ データ（数字）で示して欲しい。資料の記述について不満がある。
←利水については、後で説明させていただく。
 - ・ タイムなスケジュールであるが、資料等は詳細に出してほしい。「効果があると考えられる事項」については、それぞれのサブ WG で数字を出してほしい（リクエスト）。数字が出てこないともともな議論ができない。
 - ・ 「現計画」とあるのは、「原計画」の方が良いのではないか。
←役所的には「現」だが、ご趣旨は理解している。
- り) 「琵琶湖の水位低下抑制」とあるのは、長期的な意味か、短期的な意味か。
←長期、短期を含めてである。
- り) 「異常渇水時の緊急水の補給」とはどのようなことを指しているのか。「琵琶湖の水位低下抑制」と「異常渇水時の緊急水の補給」の両方入れるのは紛らわしい。検討してほしい。
他にも質問があると思うが、文書で出して欲しい。

②利水に関する調査検討の報告

※河川管理者より、資料1-1、資料1-2、資料1-3について説明がなされた。

- ・ 資料1-2の5ページの「水供給の実力低下」はどのように計算をしたのか。
←近年は渇水が頻発しており、1/10の渇水に対して公称能力通りに供給できていない。資料1-3の13ページを参照願いたい。昭和59年で75%程度の実力である。
- り) 平成3年頃までは供給量が取水量を上回っているが、どういうことか。
←青い線が赤い線より上になっているところ（最大取水量が供給能力を上回っているところ）は、琵琶湖からどんどん下流の方に水を必要なときに結果として出してしまうている。この時は、-1.5mまで使えるというルールもなくしてどんどん下がっている状況である。取水制限をかなりの頻度でやりながら、取水を結果としては苦しみながらやってきた。
- ・ 今回はセットで報告されており、わかり易かった。利水や安全度の面で、1/10は確保すべきであり、「実力の低下」についてはもう一度検討する必要がある。また、府県はダム撤退を表明しているが、国土交通省はどう考えているのか。利水については、琵琶湖の問題が絡んでいる。-150~200まで下げないと利水安全性を確保できないとはっきり言うべきではないか。節水対策は水道事業者の経営を圧迫している。河川管理者は、節水が水道事業者の経営にインセンティブを与えるようにするべきである。
←撤退の意向を府県が示したという話しについて正確にしたい。大阪府から文書をいただき、阪神水道等から口頭で聞いている内容は、ダムを撤退するという内容ではない。
ダムの参画のあり方について協議をさせてほしいという内容である。また、それは最終的な意志決定ではない。
これに対して我々は水需要の問題は水需要だけでは解決できない。それに伴う諸問題を包括

的に整理する必要があると回答している。

利水に関しては、(琵琶湖水位を) -150 cmまで下げてもいいとは思っていないが、利水計算上とりあえず-150 cmまで計算しても(安全度) 1/10を守れていない。そのため75%ぐらいの実力しかないと説明している。-150 cmさえも守れないということで、大変深刻な状況である。

水道事業者にインセンティブを与えるような方策を今は持ち合わせていない。現行制度上なにができるかを考え、環境を守るという立場で今できる対策を一生懸命させていただいている。

- ・ どこまで「受忍」できるかということが問題だ。治水の面でも、利水の面でも、1/10を1/5にするようなことは、今の日本の社会では難しい。今のうちに手を打つ必要がある。
←1/10というのは、先進国の中では良い数字とはいえないが、とりあえず我々が目指しているところである。最近、平均降水量が減っているばかりでなく、降雨量のばらつきが大きく、局所的に豪雨があったり、局所的に渇水があったりという状況になっている。どこを目指すのかということは難しいが、とりあえず1/10としている。
- ・ 近畿地方整備局が、節水を呼びかける取り組みを行っている点は、大きな英断として評価できる。このアクションによって水道事業者も真剣に考えるであろうし、他の水利権者にも大きな影響を与えるであろう。2階に上がった河川管理者のはしごをはずすような消極的な意見は問題である。
- ・ 我々は欲望社会に生きている。博多では近畿よりも少ない利水で生活しているが、多く使うことが美德のように捉えられている。人間が「善」であるかについては悲観的である(全員が悪ではないが)。それをどのようにすり合わせていくかが重要である。
- ・ 大阪府からの申し出に対して、「包括的に検討」というのは、ごまかしのようにも聞こえる。問題のディスカッション・ポイントをはっきりと述べてほしい。
←協議したいという申し出のあった機関だけでなく、他の機関も含めて、包括的に協議しましょうと回答している。
- ・ 「欲望社会」の話は精神的には理解できるが、このような場では出されたデータを基に議論しなければ話は進まない。
- ・ 制限水位の低下に伴う琵琶湖の放流量は、その多くが海に流れている。それらをもっと有効に活用できるのではないか。操作管理をどのようにすればよいのかをもう一度見直してほしい。
←維持流量については削減してきた経緯がある。
- ・ 21ページの図は、何回見てもわからない。河川的能力が低下しているのか、琵琶湖的能力が低下しているのか。我々としては、どれだけのタムでものを考えなければいけないのか。
←前提を設けて検討してみたい。

※約20分間の休憩

←(河川管理者から資料1-3についての補足説明がなされた)

13 ページのグラフは、計画量に対する割合であり、実際の取水実績に対する割合ではない。実績は計画量よりも少ない。

り) 水需要の部分は、よほど真剣に読まないとう理解できない(よくわからない)。それでも理解できなければ、個人的に質問させて欲しい。

③質問等に対する補足説明

○川上ダム計画に関する調査検討(中間報告)—— 第1回ダムWGにおける質問に対する回答
※河川管理者(木津川上流河川事務所)より、資料3-4について説明がなされた。

- ・ C3-4についての説明はだいたい理解できた。かなり細かく見ないと、見えてこないことがわかった。
 - ・ 破堤条件を、堤防天端高-余裕高と固定するのは、やはりわからない。
←堤防がもろいもので堤防補強をしっかりとやらなければならないということは何度も申し上げている通り。堤防補強を行うと、今までの堤防に比べて格段に強くなるとは思っているが、堤防の水位がどこまできても100%の自信があるわけではない。堤防が壊れる可能性のある一つのラインとして堤防天端-余裕高で破堤することを想定して計算したものである。いろいろな場合を想定してよく考えなければならぬところだと思っている。
 - ・ 堤防が壊れずに越流するのか、破堤するのかが大きな鍵だ。堤防強化をして壊れなくなるということは、今回の計画の大前提であると思うし、そうでなければならない。資料の3ページでは1600を超える流水のことであるが、先程の説明では破堤した場合の内容であったが、破堤しない越水した場合は全く異なって、数量は小さくなる。もっと研究をして破堤しないものにしていかなければ、本質がおかしくなる。
 - ・ スーパー堤防の議論には、実現までの時間と金のデータが必要だ。スーパー堤防については、近畿だけががんばっている。全国的にはあきらめているのではないか。
←破堤による被害を少なくしたいというのが第1の優先事項だ。スーパー堤防は効果は大変あるが、すぐにはできない。その間に緊急的に補強する方法を考えて、対策を施していくのが整備計画の中の一つの大きな骨子だ。
 - ・ 30年間で、どの程度整備できるのか。いかにもできそうなことを言うから、堤防を作ればダムは要らないという議論になる。
←堤防補強は、今までよりは良くなるけれども、万全だというわけにはいかない。堤防にも限界がある。
 - ・ 30年間で見事にできるのであればダムは不要だが、僅かしかできないのではないか。
←どこが弱いのかについては、調査中である。工法についても検討している。待っていただきたい。
 - ・ それが表示されるまでは、議論できない。その結果が出るまで、この会をとめたらどうか。
←いま手元にはないが、過去にお出した資料でつかみの数字を出しているのをお示ししたい。
- り) 堤防の問題は、治水の本質的な問題であり、今後のWGでも検討していきたい。新しい工法に

対して、あまりにも臆病であったと思う。この委員会は技術的なことについて検討できる委員会ではないが、タブーなしで検討してきた委員会であるので、どこをどのようにしていくか、あるいはダムか堤防かという選択に対して、きちんと解決していきたい。

- ・ 安全弁を備える考え方でつくるのが重要だと思う。
- リ) 本質にかかわる問題だ。越水させて、他を守るのかどうかは本質的な問題である。
 - ・ 岩倉峡の狭窄部はどのような状態になるのか。
←次回示したい。
 - ・ 堤防補強をしたときに、破堤の問題をどう考えるかということは大事な問題だ。越流すると破堤することになるのか、河川管理者の考えを聞きたい。
←時間の問題で、間違いなく破堤すると考えられる。
 - ・ 資料で昭和 28 年と昭和 40 年の雨量が出ているが、これには大きな違いがある。この理由は何か。
←昭和 40 年の洪水は、資料の 2 ページにもあるように降雨量が 100mm 程度違う。また雨の降り方もそれぞれパターンが異なる。
 - ・ 長期的には、危険性の高い地域からは、移動することも必要ではないか。
- リ) 上野盆地は毎年のように浸水していた。河川改修の結果として、浸水は少なくなったのか。
←堤防はまだ完成しておらず、木津川本川あるいは支川が合流するあたりはまだ堤防がないため堤内地は頻繁に浸水している。

○余野川ダム計画に関する調査検討（中間報告）—— 補足説明

※河川管理者（猪名川総合開発工事事務所）より、資料 3-5 について説明がなされた。

- ・ 一庫ダムで詳細な検討をしてもらっているが、それぞれの嵩上げについて、どのくらいの費用がかかるのか。
←精査段階である。大凡の数字では、1.2m で 130 億円、2.0m で 160 億円、5.0m で 870 億円、10.0m で 1080 億円である。道路の付け替え等も含めた、必要となる費用一式である。
- ・ 私としては狭窄部の開削はせず、また新しいダムをつくるべきではないという方針である。銀橋下流を考えないのであれば、おそらく最も効果があるのは銀橋上流の開削ではないか。その次がダムの嵩上げである。開削を 3 段階程度に分けて、さらに余野川ダムをつくる、つくらない、さらにダムの嵩上げのマトリックスをつくっていただき、示していただきたい。個人的には余野川ダムの効果は微々たるものでないかと思うが、これを怖がらずに出していただきたい。ダムの嵩上げは 10m 上げても本当に安全性の面で大丈夫なのか。
- ・ 銀橋開削のもう 1 つのネックは下流の被害である。それも入れて先ほどのマトリックスを計算していただきたい。
- ・ 洪水時だけなら道路が浸水するくらいは良いのではないか。すべて付け替える必要はない。
←道路管理者の了解が得られるのかという問題がある。
- ・ 開削は何 m 流れるのかということだけでなく、どのように開削し、景観はどのようになるのか

ということも示してほしい。

- ・ 一庫ダムは古いですが、耐震性は本当に大丈夫か。
←必要であれば示したい。今回の計画は耐震性を考慮している。
- リ) 今回の WG では案の段階で出してもらっている。実施することになればそのような確認も必要だが、現在ではそこまで求めなくても良いと思う。
 - ・ 過去に嵩上げの実例はあるのか。
←10mレベルの嵩上げを検討しているところもある。北海道等で事例はある。
 - ・ ダムをつくるときには下流の 100 年対応を考えていたと思う。対応しきれなくなり、何らかの対策をということになったのだと思うが、その変更の一番大きな理由は何であったのかを教えてください。
←下流が改修されていけば問題はない。もともと考えていたもので操作をしていると下流の対策がなく効果が不十分である。中小の降雨でも効果があるようにということ考えている。
 - ・ 洪水を貯留するように方針を変えたのではないかと思うが、それでは我々が聞いている説明と合わなくなってしまうのではないか。下流の河川対策には手を付けず、上流のダムで治水対策をしようという方針に切り替えたのか。
←切り替えたということではなく、今ある状況でどのように効果的な対応をするのかということである。
 - ・ 利水容量の振り替えについては詳細な説明がなかったが、現実的には、どのようなメリット、デメリットがあるのかどうか示して欲しい。
←改めて説明したい。

3. その他

○今後のスケジュール

※庶務より今後のサブWGのスケジュールについて説明がなされた。

- 委) ダムWGの検討に関するお願いだが、ダムの目的を明確にして欲しい。水需要に関しては、数字を出してもらわないと検討が進まない。治水、環境、利水、代替案を表の形にして検討し、金の情報も出して欲しい。これをベースにWGで検討してほしい。
- リ) 資料 3-1 は若干不親切である。代替案も一目瞭然でわかるように整理して欲しい。

○一般傍聴者からの意見

- 傍) ダムをつくるかつくらないかは、治水によると思う。治水の面で代替案があるのであれば、ダムは不要だと思う。ダムに代わる代替案があるのであれば、調査の必要がないこともたくさんある。
利水需要を抑制しようとするキャンペーンは、生活スタイルを変えていくようなキャンペーンにしてほしい。水道事業者は、水の売り上げが下がっていることを経営課題として取り上げているが、渇水期には水の値段を上げるなどして事業者が節水に取り組むように仕向けてほしい。

需要を抑制するという視点では、府県などにも上手に圧力をかけてほしい。

傍) いろいろなダムの基準があり、耐震基準はそれぞれの時代で異なっている。それぞれのダムではどのようにしているのか。その付帯設備としてあるポンプなども耐震設計がなされているのか。

福井の集中豪雨で犠牲となった方に対して、流域委員会などで黙とうを行う、カンパを募るなどはできないか。

傍) 福岡市の1人当たり水利用は292リットルに対して大阪市は519リットル。この格差を深く認識していただきたい。

り) 委員会では、現地(福岡)に調査に行った実績がある。

○福井豪雨災害の報告

※河川管理者から、参考資料2「平成16年7月 福井豪雨災害について(速報)」をもとに報告がなされた。

以上

第36回運営会議（2004.8.20開催）結果報告		2004.8.21 庶務発信
開催日時：	2004年8月20日（金）10:00～11:20	
場 所：	キャンパスプラザ京都 2階第2会議室	
参加者数：	運営会議委員6名（委員長、治水部会長、琵琶湖部会長、環境・利用部会長、淀川部会長、猪名川部会長） 河川管理者3名	
検討内容、 決定事項	<p>1 委員会の今後の進め方について （ダムワーキング）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検討が遅れていることから、現委員の任期を延ばし、十分検討した上で意見書をまとめてはどうかという意見もあるようだが、期限を延ばしても完全な結論が出る性質のものではないことから、運営会議の意見としては「既定路線で検討を進めるべき」ことが確認された（現委員の任期中に意見書をまとめる）。 ・ 可能な範囲でとりまとめ、積み残しが出る場合には課題として明示する。 ・ 具体的には、9月、10月でサブダムWGでの検討を鋭意進め、第35回委員会（11/16予定）にダムWGとしての「素案」を提出する。 ・ これまでは河川管理者から説明を受ける形で進めてきたが、相当量の資料提供がなされていることから、今後はダムWGのメンバーも主体的に手を動かして検討していく。その過程で必要な資料等については河川管理者に提供を求めていく。 ・ ダムの代替案については、真剣に検討すべきものとそうでないものを、委員会として河川管理者に伝えていく必要がある。 <p>（地域部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムに関する説明・議論は、全体委員会と地域部会で重複する可能性がある。また、地域部会でどれだけ有効な意見が得られるか疑問な面もある。 ・ 地域部会（琵琶湖部会と淀川部会）で扱うダムを調整し、サブダムWGと地域部会を合同で実施することも考えられる（今後調整）。 ・ 計画内容の進捗点検については、地域部会が中心になって検討し、その結果を全体委員会でまとめる。 <p>（委員会全体）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当初のスケジュール通り進める。委員の任期延長は行わない。 ・ 今後の委員会では、ダムワーキングからの中間報告を受けていく。 ・ 新たな委員会に向けた準備は9月から粛々と進める予定（←河川管理者）。 <p>2 第32回委員会（8/24）の議事内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 審議内容は、1) 状況報告、2) ダムワーキングにおける検討経過、3) 委員会の今後の運営方針、とすることが確認された。 ・ 2) については、今本リーダーが「淀川水系における事業中のダム」（今本リーダー作成、精査予定）を用いて報告・説明を行う。これまでのダムWGで提出され 	

	<p>一作成、精査予定) を用いて報告・説明を行う。これまでのダムWGで提出された資料は、机上資料として準備する(複数人で1セット)。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3) については、「既定路線通りに進める」ことで確認をとる。・ 時間的な余裕がある場合には、一般傍聴者からの意見聴取に十分時間をとる。 <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---

※このお知らせは委員の皆様に必要な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。